

ほくげん  
莫言

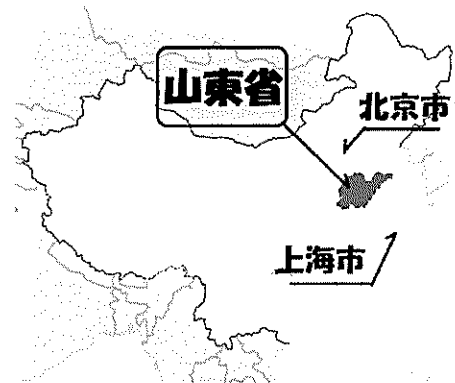
Mòyǎn 【1955年2月17日ー】

中国語学科 助教

藤田由香利

2012年10月、スウェーデン・アカデミーは今年のノーベル文学賞を、中国の代表的作家である莫言氏に授与すると発表した。

「言う莫（なか）れ」という意の「莫言」は彼のペンネームであり、本名は“管谟業 Guǎnmóyè”（管谟業：かんぼぎょう）。莫言氏は山東省高密市の農村で生まれ育ち、60年代の文化大革命のために小学校中退を余儀なくされた。1976年に人民解放軍へ入隊し、軍に在籍しながら執筆活動を始めている。



莫言氏の作品は日本でも多く翻訳され、彼自身もまた10回の訪日を経験している。

1987年に発表した『赤い高粱（コーリャン）』（原題“紅高粱家族”）は内外の文壇で高く評価され、翌年1988年、張芸謀監督により映画化され、ベルリン映画祭で「金熊賞」の受賞を果たしている。

また一方で翻訳者の活躍も見られる。中国の複数WEBサイトでは「莫言氏のノーベル文学賞受賞において、翻訳者もまた功労者と言える。ここ数年、中国の作家による多くの作品が様々な言語に翻訳され世界に渡っており、特に今回、莫言氏がノーベル文学賞受賞に繋がった経緯にも、彼をよく理解する翻訳者の後押しがあった。」として、翻訳者が注目され、高く評価されている。

莫言氏の最新翻訳作品である『蛙鳴（あめい）』（2009）では、一人っ子政策の禁忌に挑んでおり、2011年に同作品で中国文学において最高権威とされる「茅盾文学賞」を受賞している。

そして、ついに今回「幻想的リアリズムによって、民話、歴史そして現代を融合させている」として、ノーベル文学賞受賞に至った。

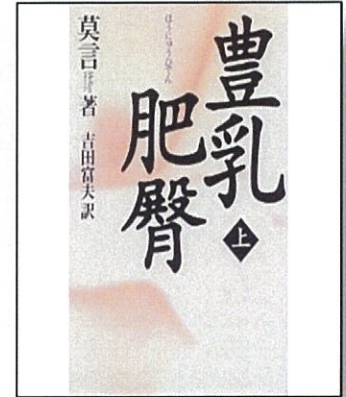
【莫言の最新刊シリーズ 紹介】 (杏林大学図書館所蔵)



書名：蛙鳴 (あめい)  
 原題：蛙  
 著書：莫言／吉田富夫  
 出版社：中央公論新社  
 刊行年：2011年



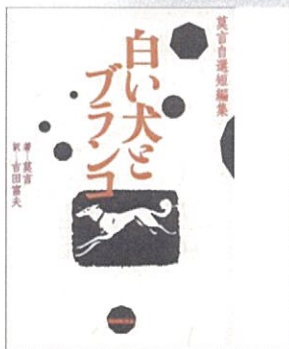
書名：白檀の刑  
 原題：檀香刑  
 著書：莫言／吉田富夫出版  
 出版社：中央公論新  
 刊行年：2010年



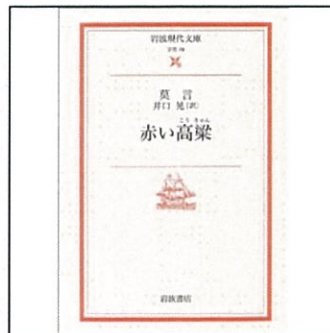
書名：豊乳肥臀  
 原題：丰乳肥臀  
 著書：莫言／吉田富夫  
 出版社：平凡社  
 刊行年：1999年



書名：転生夢現  
 原題：生死疲劳  
 著書：莫言／吉田富夫  
 出版社：中央公論新社  
 刊行年：2008年



書名：白い犬とブランコ  
 原題：白狗秋千架  
 著書：莫言／吉田富夫  
 出版社：NHK出版  
 刊行年：2003年



書名：赤い高粱  
 原題：红高粱家族  
 著書：莫言／井口晃  
 出版社：岩波書店  
 刊行年：2003年



書名：酒国  
 原題：酒国  
 著書：莫言／藤井省三  
 出版社：岩波書店  
 刊行年：1996年